

葉月俳句・短歌集

篠南川柳会

電話口目尻が下がる孫の声
力では負けても口で勝つ女
高い物ひと回りして迷つて
水入らず気兼ね知らずの骨休み
点滴で肌うるおった入院中
株高も無縁の輩は野良仕事
なが尻は宴会場の粗大ゴミ
誰も見ぬテレビの前で高いびき
ドアバターンそつと閉めれぬ訳がある
山の上風景眺めひとり立ち

田中すみ子
田中 保美
木本 清子
谷口千代子
田村 京子
芝田 憲蔵
松本もとお
松本 安子
射場ちずる
篠原みち子

内海俳句会

鰻食み此の長寿持て余す
見えねども餌に向きぬ大花火
蟬時雨闘魂駆くや古戦場
斑猫やこの道何処え遁走す

太田 信子
岩森十志子

菊川俳句会

待ち飽きし待合室の薄暑かな
夏空に清掃活動地域の和
危ないぞこは車道よ蛙の子
神仏のお下り分け合うサクランボ

宮下 熊夫
長田 高明
長尾 則夫
井関 禎美

はじめまして。赤ちゃん。

6月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
城 辺 甲	本 多 乙	葉 葉 葉
柏	水 尾 陽	輝 輝 輝
御 荘 平 城	梅 田 承	太 太 太
城 辺 甲	浅 岡 花	梧 梧 梧
城 辺 乙	松 下 彪	人 人 人
御 荘 平 城	山 田 日	葵 葵 葵
城 辺 乙	西 口 愛	麻 麻 麻
増 田	山 本 十	隼 隼 隼
御 荘 平 城	久 德 隼	輝 輝 輝
城 辺 乙	河 野 聖	梨 梨 梨
深 浦	野 本 智	智 智 智
柏	山 口 智	智 智 智
中 川	森 田 庵	庵 庵 庵

ご冥福をお祈りします。

6月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
御 荘 和 口	谷 口 夫	74歳
魚 神 山	小 田 君	85歳
上 大 道	谷 泉 和	71歳
御 荘 平 城	埜 下 昇	65歳
御 荘 平 城	小 川 實	73歳
緑 乙 中	村 川 恭	80歳
中 川 中	川 力	92歳
満 倉 前	田 浦 一	102歳
一 本 松	和 田 子	99歳
小 平 山	溝 垣 定	77歳
満 倉 前	田 下 美	80歳
満 船 越	赤 壁 一	98歳
御 荘 平 城	石 城 薫	77歳
中 増 城 辺	浦 山 博	83歳
増 城 辺	田 山 茂	88歳
増 柏	田 深 武	92歳
福 家 中	天 白 梅	69歳
油 船	浦 今 崎	82歳
御 荘 深 泥	串 織 田	48歳
中 一 本 松	川 藤 田	83歳
	袋 前 田	85歳
	越 吉 田	94歳
	清 水 寅	65歳
	山 本 豊	98歳
	岩 村 洋	81歳
		66歳
		51歳

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。

さわらび短歌会

剪定を終えし狭庭の涼しさよ
我が町のトライアスロン全国に
初夏の風駿馬の如く海渡る
あらららら彼の浴衣は左前

小野山シマ子
長田千恵美
中川 一喜
村尾加都子

水筒のお茶飲み鳥の声を聞く梅雨の晴れ間の木陰のサロン
防火帯の広葉樹の若葉は盛りあがり檜の美林を静かに守る
玄関に避難袋の三個あり使わぬ事を願いてやまず
筋萎縮症に逝きたる友の微笑める遺影は吾に弱音吐かせず
咲きしばかりの雄花の花弁剥ぎ取りて夫は西瓜に授粉つづくる
その服は老人くさいと娘の言ひぬ吾は八十歳と口答へせり
玉葱もじゃが芋も掘り今日は雨少しずばらに昼寝してみる
帰り道遠回りして友の庭の軒まで届く夕チアオイ見る
雨季なるに六月異名なぜみなづき田植期なるに雨なき年あり
伊予と土佐つないで泳ぐ鯉のぼり今年は未だかと問ひ合はせくる
急に來て昼飯食べるといふ孫にひとり暮らしのばばは慌てる
柿若葉窓にまぶしく光る昼白きガーゼに産着縫いおり
ひねもすをどんより曇りの夕つ方蟻の大群切れめなく続く
たはむれにじゃんけんすれば連合ひは真剣そのものをかしこみあぐ
がんばれと覗き込み言うこの兄に癌病む妹いかに頑張る
足曳きて摘みにし新茶美味しくてまた来春も摘まんと意気込む
「抱っこ」と両手を挙げて父に寄る抱っここの声に何色もつけて

澤近 正弘
扇野 八代生
前田 昭夫
山崎 能子
前田 充
安村 寿美子
岩村 千代子
河上 明美
宮本 ヨリコ
國松 幸枝
水野 美代子
松本 マス子
山本 豊子
前田 知子
吉田 信保
田中 久二恵
木本 清子

